

3

A long, long time ago, there lived a tailor in a small town.

A young man called Sam, who worked there, had a good reputation as a tailor, although he was still very young.

However, Sam wasn't satisfied with his good reputation at all.

This was because he had a big dream.

(Ahh, I wish one day, I could leave to go on a heart-shaking adventure. How amazing it would be, if I had a magical power that can defeat giant men...)

Sam dreamt of these kinds of adventures every day.



5

One day, when Sam was working as usual, flies gathered around his desk.

“Ugh, how annoying. Go away!”

Sam picked up a cloth on the desk and wacked the desk with it.

He gently lifted up the cloth, then...

One, two, three, four... There were seven flies dead on the desk.



むかし むかし、とあるくにの ちいさな まちに、  
いっけんの したてやが ありました。  
そこで はたらく『サム』という せいねんは、  
まだ わかいのに いいうでをしていると  
ひょうばんでした。  
しかし、サムは そのひょうばんを きいても、  
ちっとも うれしくありませんでした。

なぜなら かれには、  
おおきな ゆめが あったからです。

(ああ、ぼくは いつのひか、  
こころが ふるえるような ぼうけんが したいなあ。  
ぼくに、おおおとこを かんたんに  
やっつけられるような ちからがあったら、  
どんなに いいだろうか・・・)

サムは まいにち、  
そんなこと ばかり かんがえていました。



あるひ、サムがいつものように  
しごとをしていると、はえがすうひき、  
サムがさぎょうをしている  
つくえのまわりにあつまってきました。

「もう、うるさいなあ。あっちへいけ！」

サムはてもとにあったぬのきれで、  
テーブルのうえをぱしりとたたきました。

そしてそっとぬのきれをもちあげてみると・・・

いち、に、さん、よん・・・なんと  
ななひきものはえがしんでいたのです。



